

ニッ池における今後の植生保全対策

ニッ池における湿原植生等の荒廃の要因は、「ルートの複線化・水路化に伴うもの」、「土砂流入に伴うもの」、「キャンプサイトの収容力によるもの」、「フードロッカーの位置に伴うもの」等が挙げられる。これらの荒廃要因の内、前者 2 つについては、資料 1-1～1-4 で対策案が検討されている。ここでは、主に後者 2 つについて対策の方向性を示す。

(1) キャンプサイトの収容力について

ニッ池のキャンプサイトは現在 2 箇所であり（図-3 参照）、その収容力は 10 張程度である。既存のキャンプサイトは降雨や流水により泥濘化することがあり、また、連休やお盆等の利用者が多い時期にはサイトの収容力を超える日もあるため、風衝草地や湿原植生上に幕営する利用者が確認されている。

各月の縦走利用者では（図-1）、特に 7 月の海の日を含む連休等に利用の集中が見られ、キャンプサイト利用者の数では（図-2）、ニッ池の利用者が最も多く、硫黄山登山道の再開に伴い再び増加傾向も見られる。

2011 年度にオッカバケ側のキャンプサイトの一部区間にロープを設置し、キャンプサイトをより限定しているが、閉鎖した区間は植生の回復が認められる。

今後の利用者数の推移等を把握しつつ、適正な利用の確保と湿原植生保全のための対策を検討していく必要がある（表-1）。

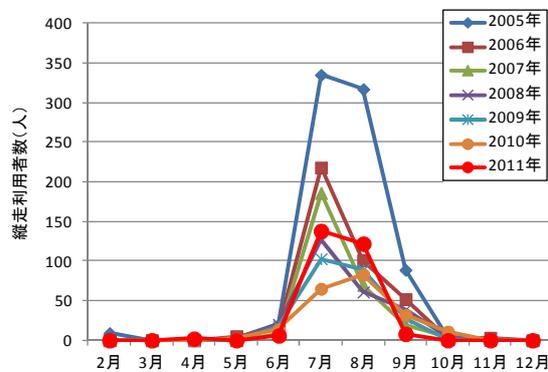


図-1 各月の縦走利用者

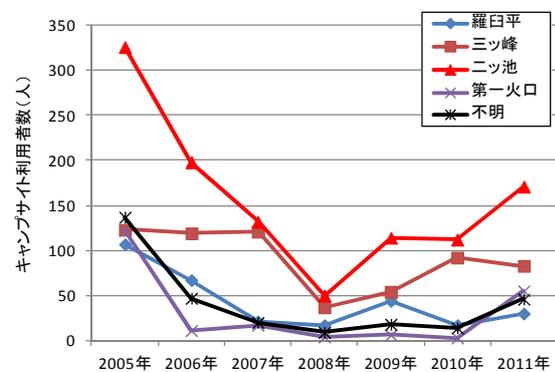


図-2 キャンプサイト利用者の推移

表 1 ニッ池キャンプサイトに関する対策案

対策案	対策内容	備考
現キャンプサイトの維持	ロープの設置等により、より一層のキャンプサイトの明示を図る。	湿原植生等への幕営が発生する可能性がある
現キャンプサイトの整備	土留及び栗石等の敷出しにて、現キャンプサイトの排水対策及び平面化を図る。	資材搬入・施工で高コスト
キャンプサイトの拡張	オッカバケ側のキャンプサイトの再利用、もしくは地の池手前のキャンプサイトの拡張。	新たな植生へのダメージが発生する。
ニッ池での野営を禁止	ニッ池での野営を禁止し、第一火口もしくは三ッ峰をキャンプサイトとして使用する。	1泊2日での縦走が困難となる
ニッ池での野営の事前予約制導入	ニッ池の野営指定地の明確化・区画割を行い、事前予約とする。予約状況をWEB上で示す。	制度周知の徹底、管理体制の構築が必要となる。

(2) フードロッカーについて

現フードロッカーは、ニッ池周辺の湿原植生の多くの希少植物が生育する中に設置されている。フードロッカー周辺における利用者の踏みつけによる攪乱等が懸念されるほか、キャンプサイトからフードロッカーへの枝道が自然発生的にできている。枝道については、2011年度に入口にロープを設置し、進入を防止している。キャンプサイトの対策とあわせ、フードロッカーに関しても検討する必要がある(表-2)。

表2 フードロッカー付近の植生への影響対策案

対策案	対策内容	備考
現フードロッカーの維持	枝道や希少植生の生息地への進入禁止のロープ等を設置する。	今年度一部実施予定。
フードロッカーの撤去	ニッ池での野営禁止にあわせ、フードロッカーも撤去する。	
フードロッカーの移設	キャンプサイト、湿原植生、風衝草地等の位置を踏まえ、ハイマツ帯の中にフードロッカーを移設する。	移設場所の詳細については今後要検討。

(3) 利用者数や利用時期のコントロールについて

キャンプサイトの収容力には限りがあり、また、高山帯を通過する登山道は脆弱であるため、将来的には利用者数や利用時期を限定することも有効な対策の一つとして想定される。

法的なコントロールの他、あらかじめ利用者数の情報等をホームページで周知し、自粛を促すなどの方法も考えられる。また、登山の際に守るべきルールやマナーを啓発することで、利用に伴う植生への影響を軽減することも可能である。



写真1 オッカバケ側キャンプサイトの閉鎖



写真2 フードロッカーまでの枝道の閉鎖

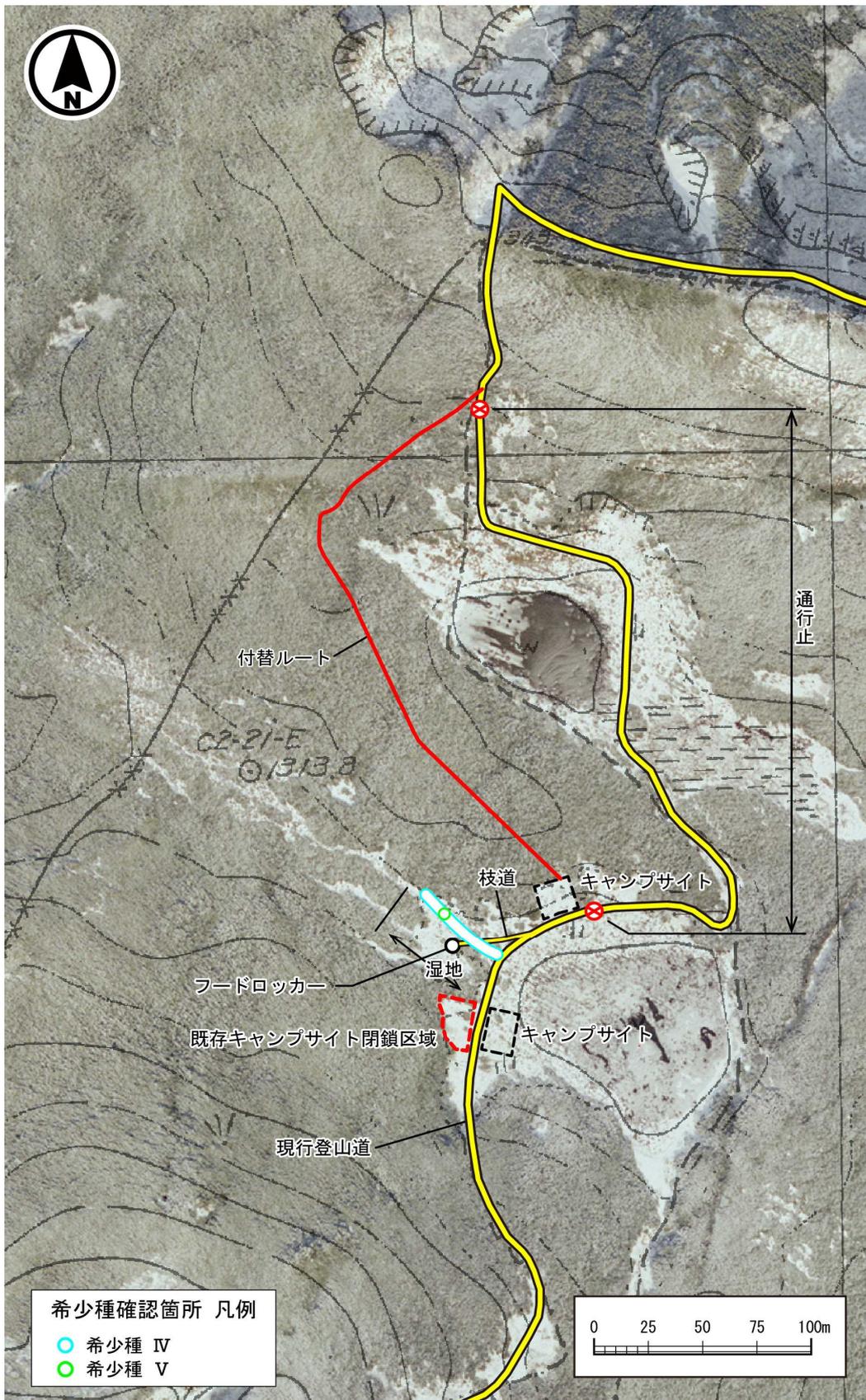


図-3 キャンプサイト等の位置図